

内容解説資料

巻頭

生活設計とリスク
～年金制度のしくみと授業案～

じっきょう 家庭科資料

(通巻 76 号)

みんなで家庭科を

No. **61**

も く じ /

生活設計とリスク～年金制度のしくみと授業案～	1
グラノーラで手軽に健康的な朝食を！	8
「紋切り型」で、いいじゃない。暮らしの中で文様を楽しむ文化	11
特集【高等学校新学習指導要領・家庭科について】	17

生活設計とリスク～年金制度のしくみと授業案～

岐阜大学教育学部家政教育講座 教授 **大藪 千穂**

1. お金をめぐる教育の実態

近年、学校教育における金融経済教育の重要性が謳われていますが、わが国の金融経済教育は、これまで行政が主導的な役割を担ってきました(大藪・奥田, 2014)。2013年には消費者教育推進のための体系的プログラム研究会が「消費者教育体系イメージマップ」の中で金融経済教育を位置づけ(消費者庁, 2013)、2014年には金融経済教育推進会議が、学校教育や社会人、高齢者における金融経済教育に関する初の統一的なガイドライン「金融リテラシー・マップ」を公表しました。

学校教育における金融経済教育は、現行の学習指導要領では、小・中・高校の家庭科と社会科と公民科に記載があります。特に高校の家庭科では、「生涯教育の視点を重視して、ライフステージを意識した計画や責任の持ちように関わって消費者として自己決定を行う姿勢を身に付けさせる」ことを位置づけており、生活設計の視点は、2022年スタートの新しい学習指導要領においても重要度が高まり、ライフステ

ジと社会保障制度との関連づけも加わりました。

また、生活設計を教えるにあたって、リスクの勉強は重要です。金融審議会は「保険商品・サービスの提供等の在り方に関するワーキング・グループ」報告書「新しい保険商品・サービス及び募集ルールのあり方について」において、「消費者が自らのニーズと合致する保険に加入するためには、消費者が保険に関して一定程度の知識を持てるようにすることが重要」と記しています(家森 2015)。しかし、現行の学習指導要領では保険教育に関する記載がほとんどなく、私的保険について、高校家庭科において唯一明確な記載があるのみです。高校公民科では、社会保険の領域の記載はありますが、私的保険への言及はほとんど見られず、中学校では、社会科、家庭科いずれにおいても保険という言葉自体見当たりません。また現行の教科書においては、高校の社会科では、社会保険についての記載はありますが、私的保険については言及されていません。中学校の社会科では保険の用語は出てきますが説明はありません。高校家庭科では、一定の説明はありますが、教

② みんなで家庭科を

表1 教員の保険に関する知識との関係 出典：大藪・奥田（2016 b）より 割合（％）

		保険の知識			
		十分ある	ある程度ある	あまりない	ない
校種と教科	中学 社会科	2.6	48.9	46.1	2.1
	中学 技術・家庭科	1.0	35.9	53.7	8.8
	高校 公民科	4.5	54.0	39.5	1.7
	高校 家庭科	2.2	53.8	40.4	3.2
授業実施の有無	したことがある	4.9	59.3	33.6	1.0
	したことがあるが今はしていない	2.4	62.4	32.5	1.7
	していない	1.6	40.7	50.8	5.2
授業の必要性	必要	4.4	53.7	37.5	2.3
	ある程度必要	1.6	46.5	46.8	3.5
	あまり必要でない	2.2	37.0	52.0	7.0
	必要でない	4.3	44.1	39.8	10.8

科書によってはばらつきがあり、教科書の説明だけでは理解しにくく、中学校の家庭科には記載はありません。新しい中学校学習指導要領では、社会科（公民的分野「B 私たち経済」の「(2) 国民の生活と政府の役割」）の社会保障の項目において、「民間の保険」や「自助、共助及び公助が最も適切に組み合わせられるよう留意すること」となりました。高校家庭科でも、家庭総合において「リスク管理の考え」が追加されました。

一方、教育現場での状況を教員向けのアンケート調査（大藪・奥田 2016 b）から見ると、保険教育をする時間は1時間でした。約4割の高校教員が保険教育を教えない理由として「難しい」ことをあげており、多くの教員が専門家による出前授業を希望しています。また表1に見られるように、保険の知識があまりないと自覚している教員が4割～5割を占め、そのような教員は授業をしたことがない割合が高く、必要性もあまり感じていないことが明らかになっています。以上より現場では、保険教育の必要性を理解しているものの、知識不足によって授業実践が進んでいないのが現状といえます。社会保障制度は改正が多いため、時間のない教員にとっては、教える度に確認をしなければならず、不安を感じがちですが、最近ではネットで新しい情報を比較的取得しやすくなっています。また様々な教材等を利用して、最新の知識を得る必要があります。

2. 社会保障制度の基礎

「社会保障制度」には、「社会保険」、「社会福祉」、「公的扶助」、「公衆衛生・医療」の4つがあります（次頁図1）。どれも大事ですが、ここでは生徒にとっ

て身近な、「社会保険」の中の「公的医療保険」（健康保険）と「公的年金」（国民年金や厚生年金）の確認をしておきましょう。

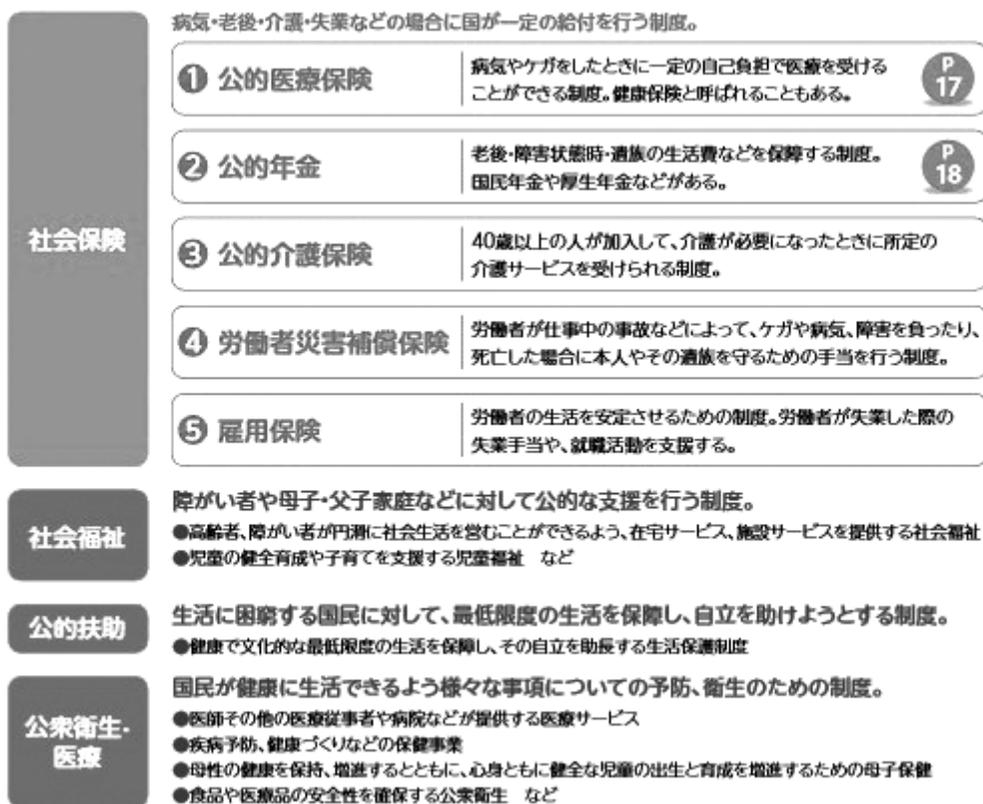
「公的医療保険」制度とは、病気やケガをした時に一定の自己負担（健康保険証を提示することで、1～3割）で医療を受けることができるものです。「公的年金」は、老後の国民年金だけでなく、障がい状態になった時と遺族になった時の生活費も保障します。日本の「公的年金」制度は、社会全体で高齢者、障がい者、遺族を支える「相互扶助」の精神で成り立っています。つまり、現在支払っている保険料で、現在の高齢者、障がい者や遺族を支える、世代間扶養（賦課方式）です。

これら国の保障を「公的保障」と呼んでいます。ただしこれは最低限の保障なので、「公的保障」だけで豊かな生活をすることはできません。「公的保障」でサポートされる内容を知り、何がどれだけ足りないかを把握してから、「企業保障」と「私的保障」で準備することになります。

3. 公的年金のしくみ

「公的年金」には加入者の職業によって2種類あります。20～60歳の自営業者や学生（第1号）が加入する「国民年金」と、在職中の会社員や公務員（最長70歳まで）（第2号）が「国民年金」に加えて加入する「厚生年金」です。両者が加入しているので、「国民年金」を「基礎年金」とも言います。「国民年金」だけに加入している自営業者や学生は、自分で保険料を月額16,340円払っています（平成30年度）。一方、会社員や公務員は「厚生年金」に加入すると、自動的に「国民年金」にも加入しており、

図1 教員の保険に関する知識との関係 出典：公益財団法人生命保険文化センター「君とみらいとライフプラン」より



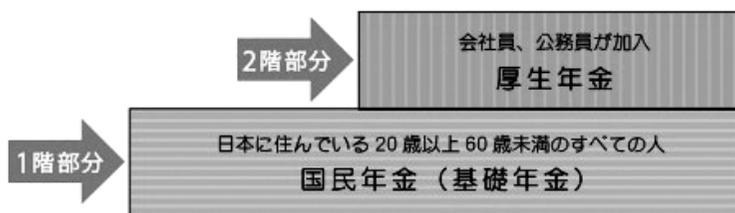
会社と折半で月給と賞与（ボーナス）の約9%の保険料を支払い、これは給料から天引きされています。国民年金の財源はこれらの保険料に加え、国庫負担（税金）2分の1と年金積立金によって成り立っています。

もらう（給付）視点から見ると、国民年金には、年をとった時の「老齢年金」、病気やケガで障がい者になった時の「障害年金」と、加入者が死亡し、加入者に生計を維持されていた遺族に給付される「遺族年金」の3種類があります。「年金」は、自営業者、学生、会社員や公務員、すべて、10年以上の加入が条件で、満額貰うためには40年間加入する必要があります。「老齢年金」は65歳から一生涯にわたって「老齢基礎年金」が給付されます。専業主婦（第3号）は、保険料を支払わなくても給付されます。「老齢基礎年金」の給付

額は物価や賃金で変わりますが、40年間保険料を支払っている場合、満額で月64,941円です（平成30年度）。一方、「厚生年金」に加入していると、「老齢基礎年金」と「老齢厚生年金」の両方を受け取ることができます。給与によって異なりますが、夫婦2人のモデル世帯の場合（夫、平均収入で40年勤務で妻が専業主婦）は月額約22万円です。

「障害年金」も「遺族年金」も給付される金額は「老齢年金」と同じです。ただし、「障害基礎年金」は障がいの度合いと子どもの人数によって異なります。

図2 国民年金のしくみ



出典 <http://www.nenkin.go.jp/nenkinkenshou/structure/structure03.html>

4 みんなで家庭科を

す。「遺族年金」も子どものいる妻は「老齢年金」と同額で、子どもの人数によって給付額が変わってきます。子どもがいない場合は、64歳までは「遺族基礎年金」はなく、妻が65歳以降は自分の「老齢基礎年金」が給付されます。

4. 保険料が払えない時に覚えておきたい免除制度

経済的な理由で保険料を毎月納付できない場合もあります。そのような時は、「全額免除」、「一部免除」、「納付猶予」、「学生納付特例」という4つの制度があります。免除制度には、「全額免除」と「一部免除（4分の3、半額、4分の1）」があり、所得が少なく、本人・世帯主・配偶者の前年所得が一定額以下や失業した場合は、審査で1ヵ月単位で免除されます。免除期間は年金受給資格期間に反映されますが、一部免除の場合は、減額された保険料は「未納」扱いになってしまいます。保険料の免除を受けた期間は、老齢年金を受け取る時に2分の1（税金分）を受け取ることができます。

学生で毎月16,500円の保険料を払うのが大変な場合は、「学生納付特例」制度があります。これは、家族の所得は関係なく、毎年申請すれば、学生の間は年金保険料を社会人になるまで猶予される制度です。学生の間は払わなくても、年金の加入期間に計算されます。過去10年以内なら保険料を追納すると満額貰えます。もし学生の中に障がいになったり、死亡した場合は、それぞれ「障害基礎年金」、「遺族基礎年金」が支給されます。ただし、経済的に余裕がある場合は、追納よりも通常の保険料納付の方が得になるので支払いましょう。

5歳未満なら、「保険料納付猶予」制度があります。本人や配偶者の前年所得が一定額以下の場合、保険料の納付が1年ごとに猶予されます。猶予期間中は年金受給資格期間に算入されますが、年金額の計算には含まれません。

5. 保険と預貯金の違い

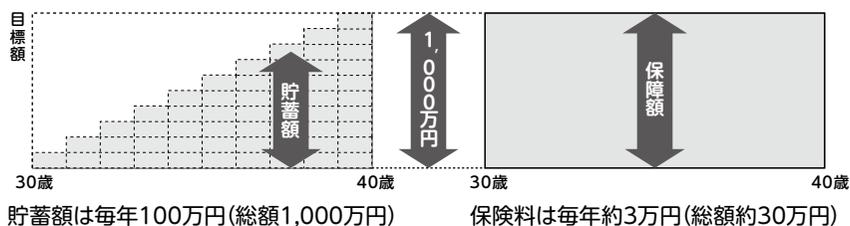
「私的保障」は自分で万一の時のために、必要なお金を準備するもので、「預貯金」と「保険」（民間保険）があります。「預貯金」は、普通預金や定期預金などで、自分の好きな金額を好きな金融機関に好きな期間預けて、お金が必要になったら、好きな目的のために好きなだけ引き出して使えます。一方、「保険」は、例えば死亡、病気やケガ、火事等、ある特定の損失に備えるために保険会社に保険料を支払って「保険に加入」します。そして一般的には何かリスクが現実にあった場合のみ、保険金が支払われ、何も起こらないと、何も支払われず、払ったお金は戻ってきません（「安心を買う」と考えます）。「保険」は、他の多くの人が支払った保険料を、万一のことがあった人が受けとれるという、相互扶助の仕組みで成り立っています。人を対象とした「生命保険」（死亡、病気・ケガ、老後や介護リスク）とモノを対象とした「損害保険」（交通事故、火事、台風や地震などのリスク）があります。

生徒には、「預金は三角、保険は四角」と教えましょう。図3に示すように、10年間で1,000万円を準備しようとする場合、「預貯金」は毎年100万円ずつ貯めていくとすると、2年目には200万円が貯まっています。いつでも引き出せますが、1,000万円は10年経たないと準備できません。一方、「保険」で1,000万円の保障を準備するには、毎年約3万円、10年で30万円の保険料が必要となります。何もなければ30万円は戻ってきませんが、もし2年目に何かあったら1,000万円を受け取ることができます。これが「預貯金」と「保険」の違いです。

6. 生活設計とリスクを教える教材例

生活設計とリスクを考える授業は、言葉や制度の点から難しいと感じる教員が多いので、筆者は生命

図3 貯金は三角、保険は四角 出典：生命保険文化センター、君とみらいのライフプラン



保険文化センターと協働で中学生と高校生を対象に授業案を作成し、県立高校生 365 人に対して実践しました（大藪・奥田 2018, 公益財団法人生命保険文化センター 2017）。授業は、①授業（50 分）、②授業の理解度アンケート、③2ヶ月後の理解度と定着度確認アンケートから構成されています。②は、授業後、授業時間内に実施しました（7分）。授業はスライド 30 枚とワークシートを用いますが、これらは生命保険文化センターの HP からダウンロードできます。

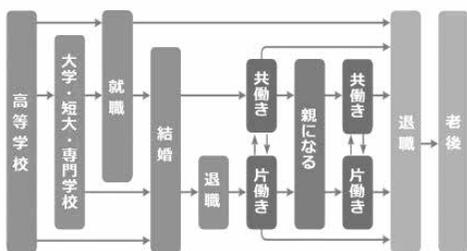
(<http://jili.or.jp/school/book/index.html>)

スライドの構成は、a) 生活設計とお金（13 分）、b) リスクへの備え（13 分）、c) 公的保障と私的保障の内容（15 分）から成っています。

a) 「生活設計とお金」では、ライフコースとライフステージのそれぞれの段階にかかる費用についてまず予測を立てさせてから、クイズ形式で確認します。特に結婚費用、住宅費用、子ども一人の教育費についてとりあげています。次いで、保険と聞いて思い浮かべるものと、保険のしくみについて自由記述をしてもらいます（3分）。

さまざまなライフコース

それぞれの生き方を「ライフコース」とよぶ



スライド 1 さまざまなライフコース

ライフイベントにかかる費用①

結婚

【問題 1】結婚にかかる費用はどれくらい？
注 結婚・葬式・披露宴・新婚旅行などの総額

A.約250万円 B.約350万円 C.約450万円

【答え】C.約450万円 ⇒ (平均) 463.3万円
注 県 県民生活の指標調査結果を参考に
* リアル・マーケティング・リサーチ・ゼネラル・リサーチ(株)調査(2017)調べ

住宅購入

【問題 2】一軒家を購入するのに必要な費用はどれくらい？
注 土地付住宅の場合 (全国平均)

A.約2,000万円 B.約4,000万円 C.約6,000万円

【答え】B.約4,000万円 ⇒ (平均) 3,955万円
* 住宅金融支援機構「フラット35」(平成28年度) (2016年度)

スライド 2 ライフイベントにかかる費用①のクイズ

b) 「リスクへの備え」では、まず身の周りにあるリスクに何があるかを自由記述させ（3分）、その後スライドを用いて交通事故、病気、火災等のリスクが起こったときに備える手段として、公的保障、企業保障、私的保障の三つがあることを示し、公的保障は国が行う社会保障制度、企業保障は企業が提供する弔慰金や退職金等、私的保障は民間保険と預貯金があり、これは自分で準備するものであることを説明し、ワークシートとクイズで確認します。

リスクとは何か

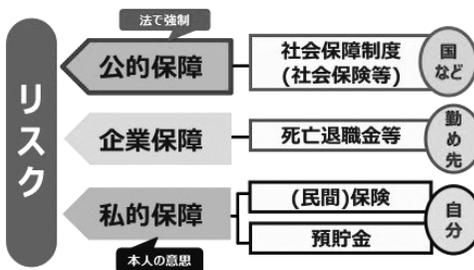
リスクとは…
起きてほしくないことで、起きるとお金がかかること



スライド 3 リスクとは何か

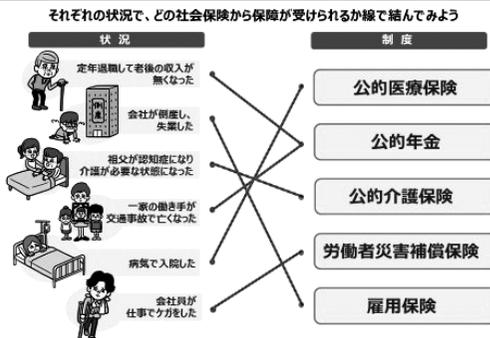
リスクに備える3つの保障

保障：もしものときに生活を守るもの



スライド 4 リスクに備える3つの保障

困ったときに受けられる公的保障を考えてみよう



スライド 5 社会保険のクイズ

c) 「公的保障と私的保障」では、社会保障の概要とそのクイズ、預貯金と保険の違いについて説明し、損害保険と生命保険との違いについてもワークシートに記入することで理解を促します。

生命保険と損害保険

	生命保険	損害保険
対象	人	モノ
受取額	あらかじめ約束した金額 (定額給付)	事故により発生した損害額 (実損填補)
備えられる リスク	<ul style="list-style-type: none"> ● 万一（死亡） ● 病気・ケガ ● 老後 ● 介護 など	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通事故 ● 火事 ● 台風や地震 など

スライド6 生命保険と損害保険

授業終了後のアンケートは、理解度、難易度、有用性、最も興味のある内容、関心度について、選択肢から選んでもらいます。最後に保険の授業を受けて、保険について思ったことを自由記述してもらいました。

授業終了後のアンケートの結果（表2）、理解度については、96.7%が理解できたと感じていました。授業の難易度については、「適当」が半数近くとなりましたが、3割の生徒は少し難しいと感じていま

した。授業内容の有用性（将来役立つと思うか）については、98%以上の生徒が将来役立つと感じており、授業が有益であったことが分かります。最も興味のある内容は、「保険のしくみ」、「ライフステージごとに必要なお金」、「リスクに備える手段」の順で、保険について関心が高くなりました。生命保険についての関心は、9割の生徒の関心が高まったと答えたことより、今回の保険に関する授業の効果があったといえます。

2ヶ月後の定着度確認アンケートは、覚えている内容、保険への関心、加入状況調べ、加入の有無、授業内容を他の人と話題にしたか、保険の確認テスト、保険と貯蓄の確認、保険を友人に説明すると仮定した自由記述、の8つの内容としました（10分）。この結果（次頁表3）、2ヶ月後もある程度関心は維持されていました。保険の確認テストも遺族年金と障害年金以外の内容に関しては、8～9割の正解率となり、基本的な内容の理解度は定着していました。また、教えたい内容を、例えば「保険は安心を買っている」、「保険は四角、貯蓄は三角」、「自分にあった保険を選ぶ」などの分かりやすいフレーズで紹介すると、2ヶ月たっても生徒は良く覚えていることが分かりました。

社会保障を教える時の問題点として言葉の難しさがあげられますが、社会保障に関しては社会科と家

表2 授業後のアンケート結果 出典：大藪千穂・奥田真之（2018）より

		該当数（割合）			検定
		全体	男子	女子	
理解できたか	よく理解できた	139 (51.7)	56 (50.5)	83 (52.5)	
	まあ理解できた	121 (45.0)	50 (45.0)	71 (44.9)	
	あまり理解できなかった	2 (0.7)	2 (1.8)	0 (0.0)	
	まったく理解できなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
難易度	難しかった	9 (3.3)	6 (5.4)	3 (1.9)	
	少し難しかった	79 (29.4)	28 (25.2)	51 (32.3)	
	適当	155 (57.6)	58 (52.3)	97 (61.4)	
	少し易しかった	16 (5.9)	11 (9.9)	5 (3.2)	**
	易しかった	6 (2.2)	5 (4.5)	1 (0.6)	**
将来役立つと思うか	そう思う	228 (84.8)	92 (82.9)	136 (86.1)	
	まあそう思う	36 (13.4)	15 (13.5)	21 (13.3)	
	あまりそうは思わない	1 (0.4)	1 (0.9)	0 (0.0)	
	思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
	分からない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
最も興味ある内容	ライフステージごとに必要なお金	67 (24.9)	26 (23.4)	41 (25.9)	
	リスクに備える手段	63 (23.4)	27 (24.3)	36 (22.8)	
	保険のしくみ	123 (45.7)	48 (43.2)	75 (47.5)	
	生命保険と損害保険の違い	16 (5.9)	8 (7.2)	8 (5.1)	
生命保険についての関心	高まった	116 (43.1)	47 (42.3)	69 (43.7)	
	少し高まった	134 (49.8)	52 (46.8)	82 (51.9)	
	どちらともいえない	10 (3.7)	6 (5.4)	4 (2.5)	
	あまり高まらなかった	5 (1.9)	4 (3.6)	1 (0.6)	
	全く高まらなかった	3 (1.1)	3 (2.7)	0 (0.0)	

1) χ^2 検定：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

庭科の両方で取り扱っていることから、双方の教師が事前によくコミュニケーションをとり、社会科で社会保障の基礎の部分を教え、続いて家庭科でその一部としての保険を取り上げるなどの工夫が必要となります。また、内容や言葉が難しいので、複数の教科、あるいは単一の教科において、例えば家庭科なら家庭経済での家計の場面、家族の役割のライフイベントの場面、幼児教育での子どもの出産の場面など、何度も取り上げると効果的と考えられます。このスライドにはマンガやクイズがあるので、難しい言葉でも生徒が飽きずに興味関心を持つように設計されています。是非一度実践してみてください。

《参考文献》

- ・大藪千穂 (2017), 中学校における保険教育とその効果, 生命保険論集, 金融・保険リテラシー特別号, pp.103-120, 公益社団法人生命保険文化センター
- ・大藪千穂・奥田真之 (2014) 情報活動を基盤とした新しい視点による金融経済教育の開発と実践『生活経済学研究』, 第 40 巻, pp.1-13.
- ・大藪千穂・奥田真之 (2015), 「人生設計ゲーム」を用いた金融経済教育, 生活経済学研究, 第 41 巻, pp.45-53
- ・大藪千穂・奥田真之 (2016 a) 地域金融機関との連携による金融経済教育の開発と実践 - 「人生設計ゲーム」の教育効果と地域貢献 - 『生活経済学研究』, 第 43 号, pp.53-64.

- ・大藪千穂・奥田真之 (2016 b) 高校における保険教育の現状分析, 『中部消費者教育論集』, 第 12 号, pp.29-41
- ・大藪千穂・奥田真之 (2018), 高校における保険教育の授業実践とその効果, 『生活経済学研究』, 第 47 巻, pp.19-32
- ・奥田真之・大藪千穂 (2018), はじめての金融リテラシー, 昭和堂, 1-162
- ・金融経済教育推進会議 (2014) 「金融リテラシー・マップ『最低限身に付けるべき金融リテラシー (お金の知識・判断力)』の項目別・年齢層別スタンダード」
<http://www.shiruporuto.jp/teach/consumer/literacy/pdf/map.pdf> (参照 2018-7-7)
- ・公益財団法人生命保険文化センター, 「生活設計とリスクへの備え」 「君とみらいとライフプラン」
<http://jili.or.jp/school/book/index.html> (2018.7.7 参照)
- ・消費者庁 (2013)
<http://www.caa.go.jp/kportal/search/pdf/imagemap.pdf> (2018.7.7 参照)
- ・家森信善 (2015), 「わが国の中学校および高等学校における保険教育の現状について」 『生命保険論集』 生命保険文化センター, 第 191 号, pp.87-125

表3 2ヶ月後の定着度確認アンケート

		該当数 (割合)			検定
		全体	男子	女子	
覚えている内容	ライフステージごとに必要なお金	132 (49.1)	52 (46.8)	80 (50.6)	
	リスクの備え	124 (16.1)	57 (51.4)	67 (42.4)	
	公的保障	79 (29.4)	34 (30.6)	45 (28.5)	
	私的保障	51 (19.0)	29 (26.1)	22 (13.9)	*
	覚えていない	37 (13.8)	16 (14.4)	21 (13.3)	
保険への関心	大変関心を持った	31 (11.5)	13 (11.7)	18 (11.4)	
	少し関心を持った	204 (75.8)	82 (73.9)	122 (77.2)	
	あまり関心を持たなかった	24 (8.9)	9 (8.1)	15 (9.5)	
	関心はない	8 (3.0)	7 (6.3)	1 (0.6)	
加入状況を調べたか	はい	41 (15.2)	19 (17.1)	22 (13.9)	
	いいえ	225 (83.6)	91 (82.0)	134 (84.8)	
加入の有無	はい	102 (37.9)	42 (37.8)	60 (38.0)	
	いいえ	6 (2.2)	3 (2.7)	3 (1.9)	
	わからない	144 (53.5)	59 (53.2)	85 (53.8)	
他の人と話題にしたか	はい	30 (11.2)	10 (9.0)	20 (12.7)	
	いいえ	232 (86.2)	101 (91.0)	131 (82.9)	
保険の確認テスト	定年退職＝公的年金	238 (88.5)	102 (91.9)	136 (86.1)	
	会社の倒産＝雇用保険	208 (77.3)	87 (78.4)	121 (76.6)	
	家計の担い手の死亡＝公的年金	141 (52.4)	55 (49.5)	86 (54.4)	
	病気で入院＝公的医療制度	254 (94.4)	105 (94.6)	149 (94.3)	
	仕事だけが＝労働者災害補償保	231 (85.9)	95 (85.6)	136 (86.1)	
	傷害＝公的年金	61 (22.7)	76 (68.5)	102 (64.6)	
貯蓄と保険の確認	四角は保険	218 (81.0)	88 (79.3)	130 (82.3)	
	三角は貯金	218 (81.0)	88 (79.3)	130 (82.3)	

1) χ^2 検定: *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

2) 大藪千穂・奥田真之 (2018) より